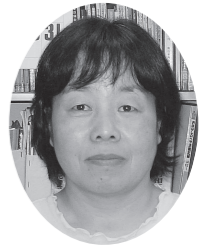


私を変えたこの一冊 『アン青春』

その本は燦然と輝いていた



田中町 河西 澄江

その本は、中学校の図書館で燦然と輝いていた。推薦図書とか名作とか言われる本に拒否反応してしまうへそ曲がりな私にとって、『アン青春』は聞いたことのない題名で、私の基準にはびつたりだった。その時は、『アン青春』が名作『赤毛のアン』の続編であることを、まだ知らなかったのである。『アン青春』は、アンが十六歳から十八歳までの物語である。アンが自分の住むアボンリー村で小学校教師をしながら、村の改善委員会を立ち上げ、理想と現実の中で葛藤をし、たくさんの失敗を繰り返して、それでも前向きに友だちや、近所の口うる

さい、けれど親切な人々と話し合いながら、少しずつ改善をしていく物語である。

プリンスエドワード島の美しい自然やそこに住む人々が魅力的に描かれたこの本の虜となり、中学校の図書館からアンシリーズ十巻を借りて読み、その後購入して何回も読み返した。そして「アンならこんな時どうするだろう」とアンと同じように想像し、素敵な女性になることを夢見た。この本に描かれている人は、どの人も長所と短所を持ち、アンとうまが合う人もいれば合わない人もいる。でもアンは、どんなに自分と合わない人とても、誠意を尽くして話し、自分が失敗したことに対しては、自分が苦手な相手にも素直に謝って、道を聞いていく。そんなアン生き方に、知らないうち

に感化されていったように思う。私のモットー「苦手な相手には、良いと探しをしよう」というのは、アンから教わったことの一つである。

その後の『アン青春』では、アンは大学に進み、パティの家で友人たちと共同生活をする。私も学生時代、アンに憧れる友人三人と「パティの家」を借り、アンと同じような生活をした。一緒に勉強し、食事をし、掃除当番をし、時には他の友人たちを招いてパーティーをした。(豊の部屋で、炬燵でしたが)友人たちと一緒に生活を共にすることで、自分の考えの狭量さに気づき、またおしゃべりな友人からは、会話する楽しさを教わった。

私にとって『アン青春』は、劇的に人生を変えた一冊ではないけれど、素敵な大人になるための指南書、そして人との関わり合いを教え助けてくれた特別な一冊である。

10月のこゝろ

スウェーデン北部の森林に、日本と同じ本シメジが生えていることが、DNA解析の結果分かったと新聞が報じていた。松茸も自生しており、日本と同種だそう。日本から遠く離れ、経緯も違う北欧の地に、同種の茸とは驚きだ。

小学三、四年の頃、親父に連れられ初めて茸狩りを行って以来、私はほとんど毎年のように茸狩りを楽しんできた。この私の体験からは、最近の十五年から二十年で、山の茸菌の様子が大きく変わっているように感じられてならない。

松茸はよく分からぬが、本シメジは明らかに採れ量が減った。三、四十年前は、里山に入れば毒茸も含め様々な茸がたくさん生えていた。近頃は、種類数量共にかなり少なくなった。どうしてだろう。何が変わったのだろうか。諸々のことが影響しているのだろうが、心配なことである。(橋爪)

本を一ページずつ開くようにテープを聴く

東赤砂 西村 三千男

今から二十数年前、下諏訪町に朗読ボランティアがあることを知った私は、早速図書館からカセットテープを借り、聞いてみました。私は目にも障害があり、昔は小学館の『幼稚園』の本を読むことができたのですが、だんだん見えにくくなり、今はそれも無理になりました。自分の部屋の白い壁をみつめながらテープを聴くと、まるで本を一ページずつ開くように文字が浮かんできて、自分が読んでいると感じました。

なつかしく思い出します。私の目もどんどん見えにくくなり、いつまで車椅子に乗れるかわかりませんが、皆さんの力をお借りして、新聞や本を読み続けていきたいです。おもいハインディキヤップがある私ですが、皆さん(やまびこの会の方)のお陰で、新聞も好きな本も読むことができます。



町図書館「やまびこ」の部屋で

視覚障害者の読書を支える「やまびこの会」～録音図書づくり30年～

「視覚障害者の目になりたい」そんな心が集まって発足した「やまびこの会」の活動は、本年度で30周年を迎えました。始まりの頃は「朗読」という言葉が一般的でしたが、視覚障害者の必要とする情報を正確に迅速に提供しようとする考え方から、最近では「音訳」という言葉が使われるようになりました。利用者は、現在50人くらいです。

吹き込みは個人でやるので、自分の時間の中で、自宅や町図書館のブースに通って行きます。1冊吹き込むのに何十時間もかかります。読むには、まず新人講習会(6ヵ月ほど)を受けてから読み始めます。その後も月に1回の勉強会、NHK巡回セミナー他各種研修会で研鑽しています。

<1冊ができるまで>

リクエスト・選書(読む本を決める) → 読むための下調べ → 読む練習 → 読む → 校正(読み方のチェック) → 修正 → 再校正・・・ → 完璧になるまで繰り返す → テープをダビング or 編集CD化
※ 原本同一性保持(著作権法第20条)、原本通りに読むことが義務づけられている

このように、1冊の本が音声化されるまでには多くの時間と労力が費やされています。今はカセットテープからCD化への移行期。CD録音図書では、目の見えない人も、目の見える人と同じように本に葉を挟んだり、目次から読みたい場所にジャンプしたりできます。現在「やまびこの会」会員数は41人。それぞれが、交流会などで利用者一人ひとりとながらを持って、活動を進めるようにしています。(問い合わせ先: 町図書館 ☎27-5555)

